

【フェンシング】全日本大学対抗・個人

男子エペ「個人」田中が準優勝

団体男子、個人6人が全日本へ

フェンシングの全日本大学対抗選手権・全日本学生個人選手権が11月22日から26日まで、京都府の大山崎町体育館で行われ、個人の男子エペで田中育一（法4・富山西高）が準優勝を果たした。

【団体】男子はフルーレ、サーブルの2種目で3位となり、全日本選手権（12月22～25日、北秋田市）への出場権を得た。エペはベスト8に終わった。女子はフルーレで3位、エペで4位、サーブルで6位だった。

【個人】女子ではサーブルで酒井秀実（文4・大分豊府高）が6位、舟山紗智（経済4・米沢東高）がベスト16、同フルーレで高橋南（文2・聖霊女子短大付高）が5位、鈴木彩香（商4・埼玉栄高）が6位。男子ではサーブルで後藤健太郎（経営3・大分豊府高）が6位入賞を果たし、田中を含めた6人が全日本選手権への出場を決めた。

田中は「最後のインカレで結果を残せてうれしい。みんなの応援が力になった。来年は団体戦での優勝を果たしてほしい」と話した。



田中育一

（田口 能成・経済2）

[ゴルフ] 日本女子学生選手権

木村が来年度の出場権

団体男子、個人6人が全日本へ

朝日杯争奪日本女子学生ゴルフ選手権が11月7、8の両日、埼玉県こだまゴルフクラブで行われ、木村麻希(経済1・明德義塾高)が77、79のトータル156で10位タイとなり、来年度の同大会出場権を獲得した。

また、11月9、10の両日に行われた信夫杯争奪日本女子大学対抗戦は4位に終わった。

初日、林佳世子(経営3・立正高)が出場選手中5位タイの74で回り、チームを牽引。2日目は多くの選手がスコアを崩すなか、木村が76で4位タイの好成績を残したが、3位の名古屋商科大に一步及ばなかった。西村麻衣主将(商4・麻生高)は「いつも2日目に良くなるのに、今回は波に乗れず、順位を上げることが出来なかった。とても残念です」と語った。

(田口 能成・経済2)

《人Zoom UP》

野球部 松本哲也さん（経営4）

一部復帰果たし 主将でよかった

今年の3月、「俺こういうの苦手なんだよ」と照れ笑いしながらインタビューに答えてくれた姿を今も忘れられない。あれから9カ月。表情とは違い、力強い眼差しで語った「1部復帰」の夢を現実にしたのが、主将としてチームを引っ張った松本だ。

高校時代には甲子園出場を経験したこともある。卒業後「身も心も鍛えてプロに行きたい」と専大へ進学した。「自分たちの代は入学時から期待されていた」と当時を振り返る。共に過ごす中で「個性的で私の強いメンバーが多かった。それだけにチームがまとまった時の力は素晴らしいものがあった」と徐々にチームの魅力が分かっていったと言う。その選手たちを束ねる主将に指名された時には「自分で大丈夫か、という不安もあったが『やってやるぞ』という気持ちだった」と不安の裏に決意を秘めていたことを明かしてくれた。



松本 哲也(まつもと てつや)
 外野手／左投げ・左打ち／170センチ68キロ／
 目標とする選手＝赤星憲広選手(阪神タイガース)

1部復帰を目指して臨んだ今年。残念ながら春季リーグ戦は3位に終わり、入れ替え戦への出場もかなわなかった。「悔しかった」思いをバネにして、彼を中心に4年次生が団結しチームを引っ張っていった。「後輩たちには1部でプレーしてほしい。そして優勝してほしい」。悔しさと後輩たちへの思いを努力につなげ、見事秋季リーグ戦での1部復帰を勝ち取った。歓喜の瞬間、選手で真っ先に胴上げされたのはもちろん、主将である彼だった。

一番良かったことは「1部復帰出来た時の主将だったこと。チームの上に立って引っ張っていったことは自信につながります」と最後に締めくくった。進路は読売ジャイアンツ。素晴らしいチームをつくり上げた彼ならきっとプロの世界でも結果を残せる。俊足を生かした守備範囲の広さで、プロの世界でも大暴れしてほしい。今後の活躍を心から信じている。

(田口 能成・経済2)

[スピードスケート] 真駒内選抜

道下5000メートル3位

真駒内選抜スピードスケート競技会が11月24日から26日まで北海道立真駒内屋外競技場で行われ、道下雅史(経営2・白樺学園高)が5000メートルで3位、1万メートルで6位に入賞した。また、11月18、19の両日、帯広の森スピードスケート場で行われた帯広の森スピードスケートナイター競技会の3000メートルでも、3位入賞を果たした。

「イメージ通りに滑ることが出来た」と話す道下。「意識的なレース展開を心掛け、足の動き具合やリズムを確認した。ユニバーシアード出場を視野に入れ、これから行われる大会でも上位を狙いたい」と語る。

好スタートを切ったスピードスケート部の今シーズンに、期待が高まる。



道下 雅史

(加藤 未希・文2)

[サッカー] 関東大学リーグ

2部降格も収穫多く

11月24日に関東大学サッカーリーグ戦の最終節が駒沢オリンピック公園総合運動場で行われ、専大は東農大に0-2で敗退。2勝15敗5分でリーグ戦を終え、2部リーグ降格となった。

創部以来初の1部入りに沸いた昨年。今季彼らを待っていたのは、開幕6連敗という1部の厳しい洗礼だった。第12節で優勝した流通経済大から1部初勝利をもぎとるも、躍進は続かず、結局12チーム中12位で専大の1部挑戦は幕を閉じた。

しかし得たものは大きい。高いレベルでプレー出来たことで、意識は確実に変わった。10点を挙げ、ゴールランキング3位の荒田智之(商3・清水東高)らが中核を担う来季、どんな活躍を見せるのか。歴史を作るのはこれからだ。



荒田智之

(成清 千紗・文1)

[アメフト] 関東大学リーグ 3勝4敗で5位

関東大学アメリカンフットボールリーグの最終戦が11月19日に川崎球場で行われ、専大グリーンマシーン
は3勝4敗でBブロック5位に終わった。

最終戦は大雨という最悪のコンディションの中、日大と対戦。決定打が出せないまま時間が過ぎ、最終
第4クォーターに反撃を見せたが、前半の差を埋めることが出来ず13—45で敗れた。

今季は苦戦を強いられることが多く、安定して実力を発揮することが出来なかった。この悔しさと経験を糧
に、来季はぜひ爆発してほしい。

(加藤 未希・文2)

[ラグビー] 関東大学リーグ<2部> 1部復帰は来季に

11月23日にトヨタ府中スポーツセンターで関東大学ラグビーリーグ戦(2部)の最終戦が行われ、専大は埼
玉工大に20—51で敗れ、今季を4勝3敗の4位で終え、1部復帰の夢は来季へ持ち越しとなった。

高藤翔主将(経済4・天理高)は「練習してきたことを発揮出来ず、悔しい」と無念さをにじませた。榎本邦夫
監督は「個人個人は頑張ったがチームのまとまりに欠けた。普段からチーム意識を高めなければ」と話し
た。

今年まいた種が来年どんな花を咲かすのか、戦いはもう始まっている。

(成清 千紗・文1)

[バレーボール] インカレ1回敗退

全日本バレーボール大学男子選手権が12月4日から10日まで、東京体育館ほかで行われた。専大はグ
ループ戦でびわこ成蹊大に勝利し、決勝トーナメントに進出したが、1回戦で立命館大に2—3で惜敗した。

[フィギュアスケート] 南雲が全日本へ

東日本フィギュアスケート選手権が11月3日から5日まで、群馬県総合スポーツセンターアイスアリーナで行
われた。南雲麻実(文3・蒲田女子高)がシニア女子の部で9位に入り、全日本選手権(12月27～29日、名
古屋市総合体育館レインボーアイスアリーナ)への出場を決めた。国内最高の舞台上で華麗な演技を見せて
ほしい。

(田口 能成・経済2)

[アーチェリー] 関東学生新人戦 佐伯が4位

11月7日から9日まで駒沢第一球技場で関東学生アーチェリー新人個人選手権が行われた。専大から
は6選手が出場し、男子経験者の部で佐伯朋哉(経営1・大宮開成高)が4位となった。

(荻野 敦子・文2)

[バスケットボール] インカレ男女ともベスト16

11月19日から26日まで、男子の日本学生バスケットボール選手権が国立代々木第一体育館で行われた。
専大は2回戦で東北学院大に敗れ、ベスト16で今大会を終えた。初戦・秋田経済法科大戦を64—59で制
し、2回戦へ。友利健哉主将(文4・中部工業高)らを中心にアウトサイドから攻めるも、60—82で敗退した。

(荻野 敦子・文2)

女子の全日本学生選手権が11月19日から26日まで、国立代々木第一体育館で行われた。専大は1回戦
で福岡大に90—42で完勝したが、続く2回戦で優勝候補の桜花学園大に55—75で敗れ、ベスト16に終わっ

た。目標の「ベスト8進出」は達成出来なかったが、気持ちを新たに取り組み、また一歩進んでほしい。

(松本かおり・文1)

漕艇部が創部70周年

漕艇部の「創部70周年を祝う会」が11月18日、生田キャンパスで行われた。卒業生、大学関係者ら約80人が出席し、現役選手の活躍をたたえ、さらなる発展を誓った。



▲あいさつする薩山雅博部長(商学部教授)